

## 建築材料等判断基準ワーキンググループとりまとめ(概要)

○サッシ及び複層ガラスの熱損失防止性能の向上を図るべく、新たな目標基準値を含む建材トップランナー制度の見直しについて審議し、結果を取りまとめた。

### 1. 本とりまとめ作成の背景

「2050年カーボンニュートラル」の実現に向けて策定された第六次エネルギー基本計画(令和3年10月閣議決定)においては、「2030年以降新築される住宅・建築物について、ZEH・ZEB基準の水準の省エネルギー性能の確保を目指し、建材トップランナー制度における基準の強化等の検討を進める。」とされている。一方、サッシ及び複層ガラスについては、平成26年11月のとりまとめを基に目標基準値等を設定し、熱損失防止性能の向上を目指してきたところであるが、今般のエネルギー基本計画等において定められた目標を受けて、目標基準値等の見直しが必要になっていたものである。

### 2. 対象となるサッシ及び複層ガラスの範囲

サッシ及び複層ガラスの建材トップランナー制度の対象については、現行制度と同様に主に戸建・低層共同住宅等に用いられるものとしつつ、サッシについては木製のサッシを新たに加え、開閉形式5種(①引き違い、②縦すべり出し、③横すべり出し、④FIX、⑤上げ下げ)、材質5種(①アルミSG、②アルミPG、③アルミ樹脂複合、④樹脂、⑤木製)とする。

また、複層ガラスについては、ガラス総板厚みが10mm超のものも加え、具体的には、①ガラス総板厚み10mm以下の複層ガラス、②ガラス総板厚み10mm超の複層ガラスのうち片側が3mm～4mmのガラスを使用しているもの、③三層以上の複層ガラスとする。

### 3. 新たな目標基準値等

#### (1) 熱損失防止性能及び測定・計算方法

サッシの熱損失防止性能(熱貫流率)の測定・計算方法は、現行制度と同様に①JIS A 4710:2015又は②JIS A 2102-1:2015及びJIS A 2102-2:2011により定める方法とする。

複層ガラスの熱損失防止性能(熱貫流率)の測定・計算方法は、現行制度と同様にJIS R 3107:2019により定める方法とする。

#### (2) 区分及び目標基準値

サッシ及び複層ガラスの新たな目標基準値については、2030年以降に新築される住宅に求められる省エネルギー性能から窓に求められる断熱性能を逆算した上で算出しており、サッシと複層ガラスを組み合わせた窓としては、目標基準値を約4割引き上げることとなる。

具体的なサッシ及び複層ガラスの区分と目標基準値は以下のとおり。

### サッシ及び複層ガラスの区分と目標基準値

区分		目標基準値[W/(m <sup>2</sup> ・K)]
サッシ	引き違い	2.16
	縦すべり出し	2.06
	横すべり出し	2.04
	FIX	1.87
	上げ下げ	2.30
複層ガラス		1.67

#### (3) 目標年度

サッシ及び複層ガラスの新たな目標基準値に係る目標年度は 2030 年度とする。

#### (4) 製造事業者等への規制

目標年度以降の各年度において製造事業者等が出荷するサッシ及び複層ガラスの熱損失防止性能(熱貫流率)について、区分毎の出荷数量により加重平均した数値が、目標基準値を上回らないようにすることを求める。

#### 4. 性能向上に向けた提言等

新たな目標基準値の下、サッシ及び複層ガラスの熱損失防止性能を確実に向上させていくためには、政府、製造事業者等、ユーザーの関係者の積極的かつ継続的な努力が不可欠であり、それぞれが取り組むべき事項について提言としてまとめている。

○参考:総合資源エネルギー調査会 省エネルギー・新エネルギー分科会 省エネルギー  
小委員会 建築材料等判断基準ワーキンググループ 委員名簿

【座長】

田辺 新一 早稲田大学理工学術院創造理工学部 教授

【委員】

池本 洋一 (株)リクルート SUUMO 編集長  
井上 隆 東京理科大学 名誉教授、東京電機大学 客員教授  
岩前 篤 学校法人近畿大学建築学部 教授  
加藤 徳子 (公社)日本消費生活アドバイザー・コンサルタント  
相談員協会東北支部・青森分科会代表  
鈴木 大隆 (地独)北海道立総合研究機構 理事  
中村 美紀子 (株)住環境計画研究所 主席研究員  
二宮 秀與 鹿児島大学理工学域工学系 教授  
前 真之 東京大学大学院 工学系研究科 建築学専攻 准教授  
望月 悦子 千葉工業大学創造工学部建築学科 教授  
山下 ゆかり (一財)日本エネルギー経済研究所 常務理事

※第 14 回ワーキンググループの開催時(令和 4 年 2 月 15 日)の委員・役職名